令和６年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　竹末　　小学校の結果分析と今後の取組について

　文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
　この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
　学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
　なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

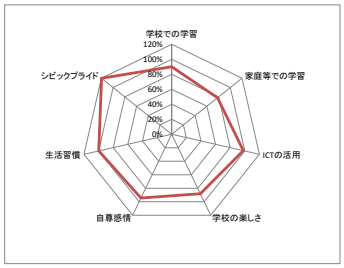
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

⑵　本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っている。領域別に見ると、「読むこと」の正答率は高いが、「話すこと・聞くこと」は低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	物語の人物像を想像することができるかどうかを見る問題。 物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えることができるかを見る問題。	
	努力が必要な問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現の工夫をすることができるかどうかを見る問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	すべての領域において全国平均を下回っており、特に「変化と関係」の領域が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数量の関係を□を用いた式に表すことができるかどうかを見る問題。	
	努力が必要な問題	立方体の体積を求める問題。 道のりと速さに関する問題。	

４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析
・進んで調べ学習を行ったり、学習したことを生かしたりとすることは全国平均よりも高い割合を示しているが、自分の考えを発表する場面では、うまく伝えられない児童が多く、全国平均よりも低い割合を示している。今後、話合いや発表場面を多く経験し、自分の考えをうまく伝えられるように指導していきたい。 ・学校でのICT活用については、授業の中で活用する時間が多く、児童の活用スキルも向上してきている。 ・学校での友達関係については、９割近くが満足していると回答しているが、学校が楽しいと回答している児童は、７割程度にとどまっている。 ・自己有用感を感じている児童は、６割程度と決して高くない。自分自身に自信がもてないでいる児童が多い。今後は、児童が主体性を発揮し、達成感を実感できる取組の工夫が必要である。 ・地域に貢献したいという気持ちは全員がもっている。今後の学習活動でも、地域との関わりを増やしていきたい。

５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

昨年から取り組んできたICTの活用をさらに進め、スキルアップとともに、話合い活動を活性化させていく。また、学習の理解・定着を深めることができるような、学力補充週間などの取組も充実させていく。

②　家庭生活習慣等に関する取組

「家庭学習」では、近隣の中学校の定期考査に合わせ、「家庭学習強化週間」を１年に３回位置付け、家庭学習の大切さを児童や保護者に啓発していくことを続けていく。
家庭学習の習慣を付けるため、SNSや動画視聴などの時間について、家庭での学習とのバランスを親子で話し合うように学年通信などで啓発していく。